2024年(R6年)
4月
No. 382

ひとはつうしん
hitohatsushin

(ホームページアドレス)http://hitoha-fukushi.com (メールアドレス)honbu@hitoha-fukushi.com
(題字:石田孝弘)

社会福祉法人 ひとは福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

今年は寒暖差の大きい冬でしたが、ひとはの周辺は淡く色づいた花が咲き誇り、春を謳歌しています。進級、進学、新生活とあわただしい年度始めをお過ごしのことと思います。

先日、ひとはの児童支援部の利用を経て、地域の一般企業に就労している元利用児童を対象とした「地域で働く仲間の集い」を初めて開催しました。保育園の年少さん、小学校低学年の時に出会った元利用児童たちも、すでに成人期を迎えています。昨秋、地域の企業に就職したNさんにたまたま出会い、余暇の過ごし方を問うと、ほぼ家で家族と過ごしているとの回答に、社会人になれば余暇の充実、仲間とのつながり作りが一層必要になると感じて会を催した次第です。

5名の元子どもたちとスタッフ有志の総勢9名で、昼食の鍋をつつきながら近況を報告し合いました。それぞれの職場で職責を全うしている口ぶりから、たくましく成長している姿に感慨深いものがありました。

企業は働く場であり、仲間づくりをする場ではありません。福利厚生を除きアフターファイブ、余暇についてはほぼノータッチで、従業者個々人に委ねられています。人は人と人とがつながりあい、多様な属性に身を置くことで人間的な生活になるものと思います。

自治会きららの仲間たち、子どもたちとの活動を通して、地域との交流、ひとはの文化の発信と、人と人とのつながりあいを大切にする39年目を迎えたいと思います。

(理事長 佐竹 正充)

《御下賜金拝受のご報告》

このたび、共同ホーム・ひとは作業所が、優良民間社会福祉事業として、天皇陛下より御下賜金を拝受いたしました。開所以来、後援会、地域、自治会きらら、ひとは会の皆様との協働による、誰でもが共に暮らせる社会づくりの取り組みが評価されたものと感謝いたします。

令和6年2月26日 貞近幸夫さんがお亡くなりになりました。共同ホームに入所し、農園で活動されていました。

初めて会ったときの貞近さんは60代後半でしたが、今と変わらない風貌でした。「若いですね」と言うと、目があまり見えないにもかかわらず飛んだり走ったりを見せてくださいました。それから10年後のひとは農園を立ち上げた時の初期のメンバーになり、ずっと私を支えてくれました。30年放置してあったジャングルを鋸鎌1本で綺麗にされ、2m近くあった笹やいばらのつるを取り除いてくれたおかげで、そこに鹿柵を立てることができました。

(撮影:貞近幸夫)

私の父が亡くなった時は「お父さんと同い年じゃけー わしが代わりをしちゃるよ」と言ってくださり、父と同じように私のやりたいことを黙って手伝ってくれていました。

戦前生まれで経済的にも身体的にも不自由で理不尽な目にたくさん遭われていたにもかかわらず、どうしてそんなに人に優しくできたのですか? いつも平和を願い皆に優しい貞近さんの思いをこれからもひとはで受け継いでいきます。本当にありがとうございました。

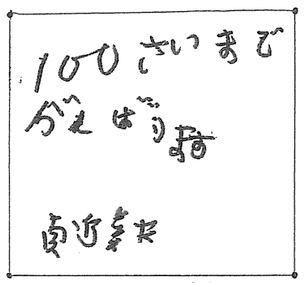
(丸岡 洋二)

今月号からの題字は就労センターあっぷの石田孝弘さんが書かれたものです。アグリでの活動を終え、作業所フロアでくつろいでいる石田さんに「ひとはつうしんって書いてもらえますか?」とお願いすると、なんとローマ字が!平仮名で書いてもらえますか?と言うも、書かれたのはローマ字でした。すごい!としか言いようがありません。(竹内宏美)

さださんのケースを約2年間務めさせてもらいました。90歳を過ぎているとは思えないほどのパワフルなさださん。"100歳まで頑張ります"と手紙をくれたさださん。「わしは元気で」と前屈を見せてくれたり、車椅子に座りながらも足を高く上げたり。

1日7本のタバコを幸せそうに味わっており、保佐人の大崎さんが来られた時は、「内緒よ」とプラスで1本もらっている時の満面の笑み、喫煙所に向かう姿を今でも鮮明に覚えています。体調を崩してから大好きなタバコも吸えずだったので、今、満面の笑みで吸っておられるだろうな。大きな声で"わしは元気で"と、聞こえてくるような気がします。

(笹川 琴未)



3年前ぐらいの手紙より

ひとはの日々

「僕のこと書いて」

岡田さんはかりんとうを切るとき、必ず「上手に切れたね」と私のことではなく自分のことを褒める。本当に上手に切っています。

岡田「長岡さんおはよう。頑張ろっ」

長岡「おはよう」

時には「元気出して、僕がついてるよ」と励まされることも。

帰りの会の後はコップを洗い、タオルと手拭き干しを毎日。

岡田「長岡さんさようなら、気を付けて」

長岡「気を付けてね」

毎日助けられているよ。

（上手に書けず、ごめんね）

（就労センターあっぷ　長岡逸子）

カラオケの様子

「一緒になって〇〇」

一年また一年とあっという間に過ぎたこの二年間。私はきららと接する中で「どうしてその行動をするのだろうか？」と疑問に思い、一緒になって…　司馬さんが砂で遊ぶ時に私も遊んでみると、泥んこになりながら「落ち着く～」とつい言葉が漏れてしまいました。また、玄関先で増長さんと一緒に寝転んで「暖かいなあ～」「ずっと寝ときたいのお～」と言いながら日向ぼっこをすることもあります。

（ひとは作業所　渡里一真）

「目が合って」

外の落ち葉を掃いていました。うっかりしていた私はちりとりを忘れてしまい、ほうきを置いたまま慌てて取りに行き、戻ってくると三輪さんがほうきを片づけようと…。ちりとりを持った私と目が合うと、三輪さんは集まった落ち葉の方に体の向きを変えました。その姿を見て、掃いてほしいとお願いすると、快く掃いてくれました。

寒かった朝、心がほっと温かくなったそんな出来事でした。

（事務局　岡川智美）

ひとは

―ひとは40周年を前に―

1985(昭和60)年、向原町戸島で民家を借りて出発した「ひとは作業所」。マスキングテープ（塗装用の養生テープ）を巻く作業を見に行ったことを覚えている。

それから8年の月日が流れ、長田の作業所に2歳半の娘を連れて子連れ出勤が始まった。無認可作業所では、ハーネス（電線をつなぎ合わせる）作業、陶芸の作業をしていた。皆の膝に抱っこされながら娘は「プチッ」と音がする作業を楽しみ、粘土をくるくる丸めてはお雛様を作り、仲間の一員になっていた。土曜日には、近所のお茶の先生を迎え「お茶会」をして、その後はカラオケで大盛り上がり。

♪虹の向こうは～　「玲二！」（かけ声）♪　笑い声がひびく。

仲間の誕生日には、向原のいつものボランティアさんが花束を持って訪ねてきてくださり、一緒に楽しいひと時。振り返ってみれば、とにかく笑い声がよく響いていた作業所だった。

つい先日、寺尾順子さんからメールが来た。「戸島の旧ひとはは取り崩されてました。」文面から寂しさを感じた。戸島での思い出を大切にしたい。

（伊藤千代子）

編集後記

新年度になるにあたって、利用する子どもたちの写真も毎年新しく貼り替える。1年前に撮った写真だが、ずいぶん幼く見え、顔つきの変わりようにこどもにとっての1年間の大きさを実感する。私も経験してきたはずなのに、大人になるとあっという間に1年が過ぎていくので忘れそうになる。先日ひとはで重廣さんに会った時「全然顔を見せてくれん」と言われた。「この間新年会で会ったばかりじゃないですか」と返事をしながら、新年会ってもう2か月前だ、とハッとした。（白井くみこ）